

ジュサラ椰子ベースの AF システム運営についての議論が行われた

(“Grgional Agricola”, Registro, 2016.3.4 より)

2月25日にセッチ・バーラスのラポーザ地区で第2回 SAF-ジュサラセミナー（サンカルロス連邦大学技術的指導、日本地球環境基金による NGO・VERSTA 支援、山添元森林院 総裁コーディネート）が行われ、60名の参加者（殆どが地元住民+CATI 代表者・森林財団・森林院・レジストロ文協・レジストロ SP 州立大学学生・企業家）があった。

【講演者】クニオ・ナガイ（ABICA）、ジェラルド・フランシスコ・アギアール（リオプレット地区組合）、アウシヴァーニア・デ・メーロ・イ・シルヴァ（SP 州立大学レジストロ校教授）、スザーナ・マルケス・ロドリゲス・アウヴァーレス、フェルナンド・シルヴェイラ・フランコ（サンカルロス連邦大学ソロカバ校両教授）

【講演テーマ】「天然素材利用の継続可能農業」、「ジュサラ AF システムプロジェクトの経済的可能性」、「森林農家の連携」、「リオプレット地区の環境保持」、「リオプレットのジュサラ AF システムの運営と監査」

【講演後】生産者達の現場訪問（ジョゼ・ヒロシ・ムラサワ／30種以上の竹林、ヨシミツ・マツオ／20年以上経過の2万本のジュサラ椰子、カズトシ・ヤマムラ／AF システムによって回復された茶畑放棄地）も行われた。

【プロジェクト概要】このプロジェクトはリオプレット地区で2012年に始まり、2015年からは15家族の参加でラポーザ地区へ広げた。目的は、AF システムで農家の新たな収入源を探ることで、ジュサラ椰子を中心に特にジュサラ椰子の実の経済的可能性を探ることである。AF システムとは、バナナ、マンジョーカ（タロ芋）、豆、等と一緒に、ジュサラ、木、地場の果実を小規模に栽培することである。場所柄、森林・湧き水の保護で、違法伐採されたジュサラ椰子の再生から回復された栽培地である。

2026/06/23

（日本語翻訳） VERSTA 理事長 田中亨